

(3) 諏訪地域 ～地の利を活かし 人を育む 豊かで活力あふれる 諏訪の農業・農村～

重点戦略1：高品質・安定生産による信州諏訪ブランド構築 (ハヶ岳西麓地域)

目標指標	H22 基準年	H25		H29 目標年
		計画	実績	
セルリーの出荷数量	7,759t	8,690t	9,092t	9,000t
トルコギキョウの出荷本数	2,186 千本	2,197 千本	2,455 千本	2,250 千本
農業用水の安定供給が確保される農地面積	220ha	0ha	0ha	830ha

<施策の取組状況>

○ セルリー等の夏期高温対策の推進

- 関係機関で構成するプロジェクトチームの活動により、高標高地のほ場確保に向けて候補地の情報収集と共有、課題整理を行いました。(検討会の開催3回)
- 耐暑性品種試験ほの設置と現地検討会等、作柄安定への取組を推進しました。(黄変対策試験ほ設置1か所)

○ トルコギキョウの生産拡大とキク産地の再構築

- 実証展示ほを設置し、開花抑制技術による秋季出荷期間延長を実証しました。(3戸、3か所設置)
- キク移植機の導入により労力の軽減を図り生産拡大を推進しました。(移植機導入5台)

○ そばの生産安定と新品種導入推進

- 標高別播種時期及び刈り取り適期の情報提供により安定生産を推進しました。(情報提供5回)
- 新品種に適した栽培技術の普及及び種子生産技術の確立を進めました。(栽培2ha、採種3ha)

○ 「おいしい信州ふーど(風土)」としてPR・発信強化

- ウェブサイト等を通じた農産物情報の積極的な発信や各種イベント等消費者が高品質な農産物の魅力を理解・共感する場の活用により、信州諏訪ブランドの魅力を発信しました。(HPによる情報提供10回、PRパンフ配布8回)

○ 農業水利施設等の計画的な整備・更新

- 県営かんがい排水事業による一ノ瀬汐の改修継続、滝之湯堰の整備開始による農業用水供給の安定化を図りました。(一ノ瀬汐L=140m、滝之湯堰L=300m)

<今後の展開方向>

- セルリーの高標高地ほ場確保に向けた関係機関の連携と課題の整理・解決
- セルリー耐暑性品種試験ほ設置と検討会開催
- トルコギキョウ抑制栽培向け品種選定と病害対策の徹底
- トルコギキョウ冷房育苗施設導入支援(県単事業)
- 一ノ瀬汐の早期事業完了と滝之湯堰の事業推進



【トルコギキョウの試験ほ場】

重点戦略2：効率的な水稻生産と地域特産品目の振興 (諏訪湖周辺地域)

目標指標	H22 基準年	H25		H29 目標年
		計画	実績	
稲作大規模経営体への農地利用集積面積	147ha	150ha	156ha	187ha
遊休農地の再生・活用面積(累計)	16ha	25ha	22ha	50ha

<施策の取組状況>

○ 水田の利用集積による稲作経営の効率化と適期収穫による良質米生産の推進

- 稲作大規模経営体へ効率的な生産に係る情報を提供し、良質米生産を推進しました。(育苗、適期収穫に係る情報提供2回)

- **遊休ハウスを活用した施設園芸の新規就農者確保**
 - カーネーションハウスの意向調査を踏まえ、遊休ハウスを活用した新規就農者確保の可能性を関係機関で検討しました。
- **流通・販売・利用の拡大による地域特産物の生産拡大**
 - 信州の伝統野菜の上野大根、後山地大根の生産安定と消費者へのPR活動を支援しました。(上野大根栽培体験ツアー3回、上野大根の料理イベント1回)
- **地域特産物の導入による遊休農地の解消**
 - スイートコーン、ブルーベリー等地域特性を活かした品目導入・定着を支援し、遊休農地を解消しました。(ブルーベリー植栽指導、剪定講習会3回)
- **りんご新しい化栽培、地域オリジナル品種の拡大**
 - 良質なりんごフェザー苗の育成を指導するとともに、「すわっこ」について、熟期、貯蔵性の調査を行いました。(調査4回)
- **農地や水の保全及び効率的な利用の推進**
 - 農地や水路等の保全管理を行う活動を支援するとともに、効率的な利用を行うための整備に向けて検討を開始しました。(先進地視察2回、検討会議3回)



【遊休地解消のためのブルーベリー栽培】

<今後の展開方向>

- 農地中間管理機構、農地利用集積円滑化団体等の活動を通じた大規模経営体への利用集積促進
- ブルーベリー等地域特産物の生産拡大による遊休農地の解消と地域コミュニティの強化促進
- マルメロの害虫発生把握と適期防除による品質向上

重点戦略3：人・農地プランの担い手経営体を主体とした担い手の確保・育成

目標指標	H22 基準年	H25		H29 目標年
		計画	実績	
40歳未満の新規就農者数(単年度)	10人	19人	8人	19人
人・農地プランに位置づけられた担い手経営体数	0経営体	175経営体	167経営体	230経営体

<施策の取組状況>

- **人・農地プランの実行及び関連支援施策の推進**
 - 支援チームの活動により、「人・農地プラン」の作成や見直しに対する支援を行いました。(地区懇談会5回、市町村等支援15回)
 - 人・農地プラン関連支援施策の活用等により、担い手経営体の確保及び規模拡大を支援しました。(青年就農給付金経営開始型28名)
- **相談活動、里親研修制度等活用した新規就農者の確保**
 - 担い手不在地域での受け入れ体制づくりの働きかけと、就農希望者を対象とした相談やセミナーの実施により、新規就農者の確保・育成を行いました。(セミナー開催4回、就農相談数延べ60名)
 - 里親研修生の基礎技術等の習得支援や青年就農給付金事業に係る指導を通じて、就農に向けた準備を支援しました。(巡回指導月1回、就農者2名)
- **各種セミナー、巡回指導による資質の向上**
 - 新規就農者を対象としたフォローアップセミナーや青年就農給付金事業に係る指導を通じて、新規就農者の資質の向上を支援しました。(基礎講座5回、簿記講座6回、キク講座2回、累計93名)
- **集落営農組織の園芸作物導入支援**
 - 空きハウス利用促進や経営の安定化を目指す集落営農組織を対象に、作期や作業時間、労働力などの条件が適した品目の提案等の支援を行いました。(技術向上指導会5回)

○ **企業の経営志向への誘導とセミナーによる資質の向上**

- 農業士、農業青年クラブ員も含め、法人化を目指す農業者を対象に12月にセミナー（2回、参加者16名）を開催しました。その後、個別指導を継続し、2名が設立に向けた具体的な準備に入っています。

○ **女性の農業経営や地域活動への参画促進**

- 農村生活マイスター協会と連携し、家族経営協定研修会を開催しました。（参加者40名）

<今後の展開方向>

- 就農促進セミナーや合同相談会への参画を通して、新規就農希望者の相談活動を継続
- フォローアップセミナーや個別巡回による課題解決支援を通じた新規就農者の資質向上
- 園芸品目を導入した集落営農法人への技術指導・経営安定のための経営計画改善に向けた取組支援
- 人・農地プラン関連支援施策を通じた新規就農者の確保・定着、担い手の経営規模拡大



【法人化セミナー】

重点戦略4：諏訪湖と共生する環境にやさしい農業の実践

目標指標	H22 基準年	H25		H29 目標年
		計画	実績	
エコファーマー累積新規認定数	1,030人	1,070人	1,051人	1,300人
信州の環境にやさしい農産物認証面積	68ha	82ha	95ha	110ha
環境保全型農業直接支援対策面積	0ha	8ha	16ha	42ha

<施策の取組状況>

○ **エコファーマー認定制度への組織や直売所単位での取組の推進**

- 直売所の総会の機会に合わせ、制度の周知と取組の推進を行いました。（説明会1回、200名）

○ **信州の環境にやさしい農産物認証への取組支援**

- 50%削減技術実証ほの設置による技術指導と取組への支援を行いました。（実証ほ設置1か所、現地検討会2回、成績検討会1回）

○ **環境保全型農業直接支援対策への取組支援**

- 市町村が行う申請受付前説明会などの機会に合わせ、制度の周知と取組の推進を行いました。（受付説明会3回、報告書作成支援5回）

○ **花きオリジナル肥料を用いた減肥の取組の拡大**

- 花きオリジナル肥料（エコカーネ）の肥効確認実証ほを設置して技術の実証を行い、減肥の取組を拡大しました。（実証ほ設置3か所）

○ **施肥量縮減技術の検討・普及**

- セルリーの生育に合わせて肥料成分が溶出するオリジナル肥料「らくセル」の普及拡大と施肥・畝立て・土壌消毒・マルチ同時乗用作業機の導入を推進しました。（導入実績9台）

○ **地域有機物資源の活用推進**

- 諏訪湖のヒシを原料とした堆肥の施用効果を確認し、活用方法を検討しました。（試験ほ設置3か所）

○ **GAPの導入支援**

- 直売所を対象としたGAP手法説明会やJA集出荷施設、生産部会を対象とした実践研修会を開催し、GAPの導入を推進しました。（説明会開催3回）

<今後の展開方向>

- 信州の環境にやさしい農産物認証取得者に対する環境保全型農業直接支払対策への取組誘導
- 水稲に加えてブロッコリーの50%削減実証ほの設置による米以外の作目・品目への拡大
- キク用オリジナル肥料「きく増」の普及拡大とカーネーションにおける「エコカーネ」の肥効確認



【環境にやさしい農業現地研修会】

重点戦略5：他産業との連携等による付加価値向上と地産地消による農業理解の醸成

目標指標	H22 基準年	H25		H29 目標年
		計画	実績	
六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0件	4件	7件	5件
農産物直売所の販売額	17億円	18億円	18億円	19億円

<施策の取組状況>

- **他産業との連携や加工による付加価値向上、販路開拓への支援**
 - 農業法人や異業種を対象とした6次産業化取組候補者の掘り起こし・申請支援及び商品開発、販路開拓等への支援を行いました。(6次産業化推進会議設立、研修会1回、個別相談会1回)
 - 商談会への参加支援やマッチングにより販路開拓を推進しました。(取引開始7件、交流会1回)
- **学校給食への地元農産物の供給拡大**
 - 給食関係者との情報交換を行い、給食現場での地元農産物の利用拡大を推進しました。(情報提供、課題検討1回)
- **農作業体験や対面販売など消費者、観光客との交流による顔の見える関係づくり支援**
 - 「上諏訪温泉朝市」の定着に向け、運営等に対する支援を行いました。(朝市開催9回、3,500人来場)
 - 農業体験を提供する農業者の掘り起こし、食育の継続的な交流を支援しました。(農業体験事業新規開始1件、食育グループ支援4者)
- **地域特産品や新品目による農産物直売所の魅力向上支援**
 - 直売所の魅力向上と売上額増を進めるための、直売所や加工所を対象とした研修や情報交換の場の提供を行いました。(研修会の開催1回)
- **「おいしい信州ふード(風土)」を始めとする地元農産物のPR、地産地消による消費者の理解増進・共感醸成**
 - 地元食材の魅力を住民自らが再認識するための、地元農産物に関する情報の積極的な発信を行いました。(イベント等でのPR3回、おいしい信州ふードSHOP登録28件)
 - 商工観光関連団体と連携して、地元農産物を使う飲食店や旅館を拡大し、地産地消(商)を推進しました。(諏訪のおいしい日開催5回、飲食店と農業者との情報交換会1回)

<今後の展開方向>

- 6次産業化を目指す事業者の掘り起こしとネットワーク構築の推進
- 直売所の魅力向上と売上額増のための情報提供
- サービス業など異業種との連携強化により地元農産物の情報発信と消費拡大



【マッチング交流会】

重点戦略6：活力に満ち、こころ安らぐ美しい農村づくり

目標指標	H22 基準年	H25		H29 目標年
		計画	実績	
集落等が地域ぐるみで取り組む保全活動面積	2,012ha	2,027ha	1,921ha	2,030ha
農業用水を活用した小水力発電箇所数	0箇所	1箇所	1箇所	1箇所
野生鳥獣による農作物被害額	6,067万円	5,700万円	4,262万円	4,200万円
農地等の安全が確保された面積	9ha	5ha	5ha	15ha

<施策の取組状況>

- **美しい農村の維持・創造のための農地・水保管理支払、中山間地域農業直接支払等による共同活動の推進**
 - 農地・農業用水等の農村資源や農村環境の保全向上に向けた地域ぐるみでの取組に対して支援を行いました。(共同活動の取組 26 組織)
 - 中山間地域農業直接支払の共同取組活動等に対する支援を行いました。(49 協定)
- **景観や生態系に配慮した水路等の施設整備**
 - 石や木材等を活用することにより、景観や生態系に配慮した農業用水路の整備を行いました。(整備延長 L=166m)
- **自然エネルギーや農村資源の利活用の促進**
 - 産・学・官が参加・協働する小水力発電等の研究会を通じ、農業用水を活用した小水力発電施設の導入を促進しました。(滝之湯堰 認可出力 141kw)
- **侵入防止柵設置や広域的な鳥獣被害防止対策の推進**
 - 広域的な被害防止のための侵入防止柵設置支援や、A I ゲート、展示ほ設置などによる効果の実証を行いました。(侵入防止柵設置延長 L=12,345m、展示ほ設置2か所、検討会開催2回)
- **老朽化した水路やため池等の決壊等の被害を防止する施設の整備**
 - 県営ため池等整備事業により檜の木ため池の改修工事を完成させるとともに、大婦奈ため池の整備に着手し、農地等の安全を確保しました。(檜の木 A=5ha)

<今後の展開方向>

- 多面的機能支払制度の創設に伴う全市町村への制度周知と取組促進
- 緩傾斜地での中山間地域農業直接支払への取組促進
- 侵入防止柵整備促進と、くくり罠などを組み合わせた捕獲体制整備の推進
- 産・学・官の参加・協働による小水力発電等研究会を通じた農業用水を活用した小水力発電施設の導入促進
- 大婦奈ため池の改修による農地等の安全確保



【小水力発電施設】